

平成25年度 新任保育士・職員研修会 報告書

日時：平成25年6月11日（火）

場所：マリトピア 参加者：115名

主催：佐賀県保育会

研修1 『基調報告』 講師：田中 豊博 氏



研修2 報告

『子どもの豊かな感性を育む保育実践』 講師：貞松 征夫 氏



保育士は、これからの保育感を自ら考えていかないといけない。周りからの意見を素直に聞き入れる。

子どもの頭をなでられ喜ぶのは、感覚が子宮の中の圧と同じなので、子どもが喜ぶ。

セルフコントロールができない子どもが多いので、子どものころから約束や決まりを守らせる。遊んだあとの片づけは子どもにさせ等し、自分のことは自分で行わせ自立心を育てる。

学びとは、人を見て学ぶことである。

1・2歳児は大人の1000倍くらいの脳の発達がある。このころの脳の発育に係わる環境は大事である。このころ脳の発達が遅れないように声を出すことが大事である。発達障害に大きくかかわる。低年齢児の発達は子どもの人間環境をしっかりと育ててやると人間性が豊かになる。そして、人間関係をしっかりと理解できる子どもを育てることの大切さを理解し保育を行うことで心身ともに発達した子供を育てることができる。

幼児期に5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を遊びの中で総合的に育てる。

どんぐりころころで強弱 隣の人と手をつなぎ人間関係 拍手で認め合う。

みんなの前では、（歌を唄うことなどが）無理だが1対1では、できることもある。それに拍手等をして、出来る喜び褒められる喜びを子供に感じさせ子ども達の発達を促進していく。

かさじぞう、しゃぼんだま飛んだの歌の中で自信をもって歌うことの大切さ、歌の中に表現をだし気持ちを伝える。

4つの『める』

1子どもを誉める。2子どもの目を見つめる。（私がいるからあなたがいる。あなたがいるから私が幸せを感じる。）3子どもが言っていること等を認める姿勢をとる。（安心感を与える）4確かめる

しつけは、嫌みなくしつこく行うことが大事である。

効果及び評価

保育士が子どもに考える時間を与え、それを自分で表現できるように促すことの大切さ。子ども達に自分たちの人間関係の中で互いに成長できる環境を与え、自ら考えさせ活動させるように保育を行うことの重要さ。子どもが自ら考え行動し、負担なく自立していくように保育を行うことが、今、必要とされている。それは、非常に重要であり今後の保育の在り方の課題となるであろう。（文責：金ヶ江和文）

研修3報告

『出発！心のアンテナを広げて』

講師：吉牟田 美代子 氏



心のアンテナとは…

ふしぎやたのしいがゆめをつくる
ありがとうやだいすきがころをつくる
いろんなばしょにいこうね
いろんなことをしようね
そのぜんぶがきみになるから

五感のアンテナを張り巡らして「面白そう」「やってみたい」「どうしたら？」
「あっわかった」と思わず遊びに取り組みたくなるような環境や内容を提供できればいい。

心身のほぐしと表現

モンスターの曲をモンスターになりきり踊る。
にんじゃりばんばんの曲をにんじゃになりきり踊る。
なりきるために新聞紙を使ってそれぞれにんじゃになる。





サザエさんの曲で踊る。

「安全基地と環境の大切さ」

養護と教育…保護者と保育者の愛着の形成による「安全基地」の存在、愛情あふれる保育者や保護者が温かいまなざしで見守り、また、多様なかかわりをもつことで子どもが安心して周囲の環境に自ら働きかけるようになる。子どもが、おもわず手を伸ばしたくなるような環境を用意することが必要。

学ぶとは…「頭に詰め込むことではなく、心に火を灯すこと」

・水をやり　　・見守り　　・語りかけ　　・自然や社会の恵みを受けて
遊びを通して、学びの芽をそだてる根をしっかりと育てるときっと美しい花が咲く。

(文責：大久保秀美)